

Saori Ikeuchi TIMES / no.034 / 2021.11.14 sun.

TOKYO 12 HAUS

池内さおり通信
日本共産党
衆院東京12区
池内さおり事務所
〒115-0042
東京都北区志茂
2-53-7

電話：03-5939-6581 ファックス：03-5939-6582 メール：tokyol2haus@saori-ikeuchi.com

総選挙 2021 池内さおり候補が大健闘

10月31日投開票の衆議院選挙において、池内さおり候補は市民と野党の共同候補として大激戦をくりひろげましたが、当選した自公候補および次点の維新候補に及ばず、残念な結果となりました。ご支持いただいた皆さん、昼夜わかたずご協力くださった皆さんに、心からの敬意と感謝を申し上げます。

結果をうけ池内候補は同日夜、事務所で支援者に感謝をのべ、「新しい政権をつくろうと市民と野党が力を合わせ頑張った日々は必ず未来に生きる」と強調。池内候補の訴えに対する共感が日々広がったことを紹介し、この流れを止めることはできないと、公約実現へ引き続き全力を尽くすと決意をのべました。

池内さおりは、国民の声が生きる新しい政治の実現、市民と野党の共闘のさらなる発展、そして党の躍進を切り拓くことのできる党づくりのために全力をあげます。



開票後、支援者とグータッチする池内候補

- ◆東京12区・池内候補の得票：71,948票(得票率28.41%)
- ◆比例代表・日本共産党の得票(東京12区)：32,878票(得票率12.63%)

色あざやかな社会へ

Column vol.34

熱かった総選挙！

今回の選挙はかつてない手応えでした。私に直接思いを届けて下さった方々にもあちこちで出会いました。熱い選挙でした。

心を込めて、この社会を変えたい気持ちや言葉を託しました。コロナ禍から命まもる政治、気候危機。そして最も悩んだのはジェンダーのテーマ。演説にするには、語る角度やテーマ選びがとても困難でした。どうすれば、この深刻で命にさえ関わるこの重大なテーマを、ふわふわせず本質をつきながら幅広い人たち(特に男性!)に聞き入れてもらえるものにするか。性暴力は政治が解決すべき課題であることを掲げ、闘いました。

最終盤の赤羽東口!はためく黄色いハンカチやグッズ。うすい愛子北区議会議員や角田由紀子弁護士や、各地から熱い思いを心に駆けつけてくださった顔、顔、顔。変化を渴望している私たち自身の強い気持ち、互いの存在を通して確認し合い、さらに大きくなっていくようなエネルギーに満ちた打ち上げ街宣となりました。

新たな繋がりができたこと。日本共産党をこれまでよりも身近に感じてくださる方々と出会えたことは、今後の私にとって大きな財産です。ありがとうございました!



池内さおり
Saori Ikeuchi
元衆議院議員

毎月12日は

TOKYO 12 HAUS の日

池内さおりがお待ちしている「TOKYO 12 HAUS」の日。実施再開のめどが立ち次第お知らせいたします。

池内さおり トークタイム

新型コロナウイルスの状況を踏まえ、当面の実施を見合わせます。



選挙結果の報告と挨拶

12区有権者、支援者に

池内さんは11月1日赤羽駅前、曾根はじめ都議、さがらとしこ、のの山けん両北区議とともに選挙結果の報告に立ちました。



有権者に報告する池内さん

また同日、北区の福島、山崎、せいの、野口、のの山各区議の地域で開かれた報告会に出席。感謝をのべるとともに「今後につながる広がりを実感した」と語り、参加者からはあたたかい激励が寄せられ、次は参議院選挙で必勝を！と決意をあらたにする会となりました。



大きく広がった共感 ジェンダー平等な社会へともに

先の総選挙では、日本共産党と池内候補が訴えたジェンダー平等をめざす政策に、大きな共感の声が広がりました。



(左上から)坂井和歌子比例候補、池内候補、田村智子副委員長、米倉春奈都議、大森亜希子さん、町田彩夏さん、小川たまかさん、北原みのりさん

25日には池袋駅での「本気でジェンダー平等に取り組む政治を」と題した街宣で、池内候補や多彩な弁士が、総選挙で日本共産党を大きく伸ばしジェンダー平等を実現しようとアピール。

24日には赤羽駅で、10代女性を支援する一般社団法人 Colabo 代表の仁藤夢乃さんとともにトーク。若年女性の性搾取被害は政治が解決すべき暴力だという訴えに、若い世代を中心に多くの通行人が足をとめ聴き入りました。仁藤さんは同日と28日、応援弁士としても街頭でマイクを握り、池内候補の必勝を訴えました。池内候補取材していた韓国メディアはこうした活動に着目。「社会の主要なテーマになりにくいですが、しかし重要なテーマを取り上げている姿勢がすごい」とコメントしました。



トークする仁藤さん(左)と池内さん

熱気あふれたファイナル街宣

10月30日、選挙期間最終の赤羽駅東口は、サポーターらが準備した、テーマカラーの黄色いフラッグがはためき、黄色いバンダナやパーカーなどを身に着けた支持者や多くの市民が集まって、熱気に包まれました。

池内候補は「子どもが助けてと言えない社会はおかしい。日常の中にある暴力を受けとめて代弁して一緒に歩いていく、そういう政治が必要です」「命が大事にされる政治をつくりましょう」と最後の訴え。立憲民主党・うすい愛子北区議、角田由紀子弁護士、小池晃書記局長が弁士に立ち、政治の転換と池内さおり必勝を熱く訴えました。

選挙期間を通じて、他党議員や、学者、文化人、知識人、活動家など幅広い市民の方々からの応援と期待の声がかつてなく広がりました。心のこもったメッセージを池内さおりチャンネルでぜひご覧ください。



聴衆に必勝を訴える池内さん(中央左)、小池書記局長

スマホで読み込みで視聴ください▼



「池内さおりを国会へ」応援メッセージ

市民、サポーターが大活躍！

イケサポのお帰りなさい宣言



総選挙では、市民の皆さんの大奮闘が大きな力となりました。

みんなで選挙@東京12区、市民連合あだちの皆さんは、独自のチラシを作成して公示前に13万枚を配布。本番中は連日スタンディング、シールボード対話、電話作戦にとりくみました。

池内さおりサポーターズ「イケサポ」の皆さんは、帰宅客向けに駅頭での「おかえりなさい宣言」を連日実施。またネット上では、池内候補を応援する理由を一人ひとりが語ったバナーシリーズなど、独自のコンテンツを次々発信しました。



イケサポ作成のバナー

#池内さおりを押し上げよう 東京12区